



乳がん高度検診・治療センター

NEW—すNo.103

ホルモン受容体陽性HER2陰性の乳がん術後 薬物療法に新たな選択肢 経口抗がん剤ティーエスワン®が適応拡大

ホルモン受容体陽性HER2（ハーツ）陰性の乳がんに対する術後薬物療法は内分泌療法（ホルモン療法）が中心となり、再発リスクの高いときには化学療法（点滴での抗がん剤治療）を上乗せするというのが以前からの標準治療でした。しかし、このタイプで特に再発リスクの高い乳がんに対しては、内分泌療法との併用により再発予防効果が高いことが複数の薬剤で近年相次いで報告されています。そのひとつは、2021年承認されたベージニオ®（乳がんセンターニュースNo.94参照）ですが、2022年11月には経口抗がん剤であるティーエスワン®（一般名：S-1）が新たに承認されましたので、今回のセンターニュースで紹介いたします。

ティーエスワン®とは

ティーエスワン®はフッ化ピリミジン系抗がん剤であるテガフル、およびギメラシル、オテラシルカリウムの3種類の成分からなる配合剤です。テガフルは消化管から吸収されるとフルオロウラシル（5-FU）に変換され抗がん作用を発揮しますが、ギメラシルは体内での5-FUの分解を阻害することにより効果を持続させ、またオテラシルカリウムは下痢など消化器系の副作用を予防する効果があります。

実はティーエスワン®はすでに多くのがんが適応症として認可されており、乳がんにおいても手術不能また再発乳がんに対する治療薬として繁用されていましたが、今回新たに上記のような乳がんにおける術後薬物療法にも適応が広がりました。

ティーエスワン®投与の対象

- ▼ 今回ティーエスワン®の投与対象として認可されたのはホルモン受容体陽性HER2陰性で「再発高リスク」の乳がんにおける術後薬物療法です。
- ▼ 同じような対象ですすでに認可されている薬剤としてベージニオ®や、もしBRCA遺伝子変異陽性が明らかながんであればリムパーザ®（乳がんセンターニュースNo.102参照）などもすでに保険適応となっています。ティーエスワン®、ベージニオ®、リムパーザ®の3剤はその承認の根拠となった臨床試験*での組み入れ対象が微妙に違いますので、選択を迷うことも少なくありません。
- ▼ 再発リスクの評価や、副作用のプロフィールなども考慮し、何が適しているか担当医の説明を聞いたうえで相談して決めることとなります。

*臨床試験：新しく開発された薬剤や治療法（市販されている薬剤を含む）の有効性や安全性を、実際に患者さんに協力していただいて確かめるもの

ティーエスワン®投与の方法と副作用

該当する患者さんには、標準的な治療法である内分泌療法にティーエスワン®を14日間連日投与し、その後7日間休薬します。これを1コースとして最長1年間投与します。

副作用は点滴での化学療法に比べて軽度で脱毛もほとんどないのが大きな利点ですが、白血球減少や色素沈着などが起こります。また、意外に多いのが目の副作用で、流涙（涙が出る）を訴える患者さんがしばしばあり、時には眼科的な処置が必要となることもあります。

1コース(21日間)

